

勿来工業高等学校建築科OB会 事務局だより

発行所
いわき市平南白土二丁目14-2
発行 者 学 校 会
工 科 O B 会
勿 来 工 業 高 校
建 築 科
会 長 高 杉 吉 正
TEL 0246(22) 2425
(事務局)

第8回 総会について

平成十二年六月二十四日(土)、午後四時より平安閣において第八回総会が開催されました。十六回生の高原氏が司会を務め、初めに高杉会長の挨拶があり引き続き議事に入り、議長は八回生の馬上氏が選任されました。議案一号に、事業及び収支決算の各報告、二、三事業計画、収支予算の検討審議が満場一致で可決され議案が成立致しました。

OB会員が今回で三七回生を迎え、会員が一四六〇名という数になり、尚一層のOB会の発展が期待されるところであります。建築業界全体が、い

まだに混乱の中、我々同志のより一層の連携を深める為にも、是非最大のイベントである「総会」に出席下さる様お願いいたします。今総会は、高杉会長を初め二年目に向けて新たなスタートを出来た事は、会員の皆様方の応援のおかげであり誌上より深く感謝するところであります。役員改選のない今年、「講演会」を開催する年で、執行部の方々と数回協議、検討した結果、建築業界の一つの要業として考えられる、直営方式を、一九九二年から鳥取県のみ子市で活やくしている「オープンシステム」の代

総会終了後も講師の山田氏、公開講演会に参加いただいた一般の方々も参加出来る、懇親も会員の皆様の協力を会の会場へ移動をいたしました。

宴会の盛り上がりにも講演者の選択について要望をして総会の報告いたします。



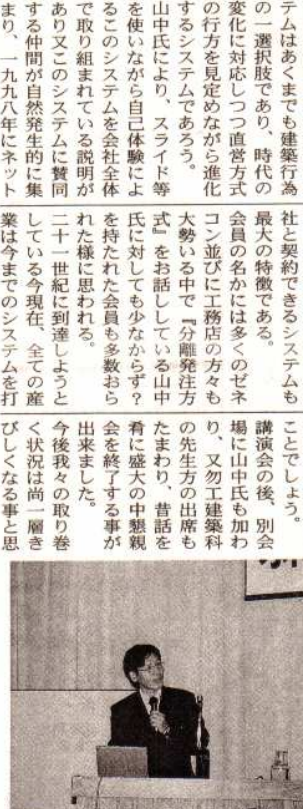
講演会の様子

講演会について

総会が無事終了し、今年度の事業の一つである講演会を「オープンシステム」の代表である山中省吾氏を招き、約一時間半の熱意のある語り口で会場一般の方々を含め熱心に耳を傾けておりました。

主題にある通り、このシステムはあくまでも建築行為の一選択肢であり、時代の変化に対応しつつ直営方式の行方を見定めながら進化するシステムである。山中氏により、スライド等を使いながら自己体験によるこのシステムを社会全体で取り組まれている説明があり、このシステムに賛同する仲間が自然発生的に集まり、一九九八年にネット

破し、進化していかねばいけません。だからこそこの会員のネットワークを通じて一致団結をし社会の中で「勿来建築科」が重要なやくわりをなっていくことを願ひ、又会員の方々の今後の活躍に期待致します。



講演会の様子

土木科から見た 建築科の違い

福島県立勿来工業高等学校
建築科 田中 正彦

OBの皆様には、常日頃の発展に役立させるため何かと大変お世話になり感謝しています。小生は、十四年間平工業高校の土木科で教鞭を取らせていただき一昨年から本校に勤めさせていたという状況です。私は、本校建築科に転勤を命じられたときは、自分なりに大変不安でありました。しかし、周りの人は建築と土木とはほとんど同じで、中国の「築土構木」という古語に由来するといわれています。しかしこの言葉の意味を最もよく表現しているのは、英語の「ビルド」である。ビルド(BUILD)とは「市民の」「公民の」「市民社会」という意味であり、エンジニアリング(Engineering)とは、「技術」「工学」を

さし、人間の生活、文化の発展に役立させるための技術であるといわれています。私は、本校建築科に転勤を命じられたときは、自分なりに大変不安でありました。しかし、周りの人は建築と土木とはほとんど同じで、中国の「築土構木」という古語に由来するといわれています。しかしこの言葉の意味を最もよく表現しているのは、英語の「ビルド」である。ビルド(BUILD)とは「市民の」「公民の」「市民社会」という意味であり、エンジニアリング(Engineering)とは、「技術」「工学」を

勿来工業高等学校建築科 OB会のあゆみ

OB会会長 高杉 吉正

我々OB会は、福島県浜通り地方唯一の県立工業の建築科OB会であり、先輩後輩の親睦を趣旨として、昭和53年頃当校夏の甲子園大会の県第一シードとなつたこともあり、この時期を前後するかのようになつて、OB会の前進である「建友会」を、有志をもって発足させた。OB会を再編成し直した足をして、特別のらと盛り上がりを見せ、平成5年7月に設立総会活動もなく休止状態であった。平成6年7月に設立総会活動もなくなり、平成9年の運びとなり、平成10年のOB会主催の「OB会」の開催を重んじて現在に至るまで、東京において在

OB会の前進である「建友会」の数が集まり、地元で「OB会」を再編成し直した足をして、特別のらと盛り上がりを見せ、平成5年7月に設立総会活動もなく休止状態であった。平成6年7月に設立総会活動もなくなり、平成9年の運びとなり、平成10年のOB会主催の「OB会」の開催を重んじて現在に至るまで、東京において在



ないかとの意見が、よく出され、卒業生(3年生)を対象とし毎年定期的に開催している。現在145名余の会員を有する。建友会とOB会の活動の違いについては、OB会は全卒業生を対象にし、建築という職業を目指す生徒達に、少くも夢をもつて前進して欲しいとのOB会の方々の熱い思いがある以上、今後上、今後

平成12年度から、若輩ではありますが母校の同窓会会長を拝命しました。OB会の皆様には、去年の総会でご挨拶を申し上げましたが、あらためてどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、先輩諸兄の皆さん、私達の母校に、どのような状況にあるのか、少子化、共学化の時代の波は「存知知」とおりです。さらには、工業高校から実業高校への変貌もささやかれております。他校との統廃合も全くないとは言いません。今年の入学生から、電気科が2クラスから1クラスに減少しました。現在、機械科3、

破し、進化していかねばいけません。だからこそこの会員のネットワークを通じて一致団結をし社会の中で「勿来建築科」が重要なやくわりをなしていくことを願ひ、又会員の方々の今後の活躍に期待致します。